

2021年11月18日

松永英樹

## 秋田港における産別協定順守の取り組み報告

11月10日、全港湾組織部・東北地方本部・秋田支部、全国港湾・東北港湾・秋田港港湾共同の取り組みとして、標記の行動を実施した。行動内容は職場集会、能代運輸申し入れ、社前集会、及び現地事業者との面談をおこなった。

10日の職場集会には仕事終わりの17時からにもかかわらず総勢150名の参加があり、全員が鉢巻をしての参加と大変熱を帯びた集会となった。集会では、全港湾鈴木龍一副中央委員長より、「この闘争は全国でたたかう、支部のたたかいは地方のたたかい、地方のたたかいは全国の仲間のたたかいである」との発言を受け、スタートとなった。新妻地本委員長開会のあいさつでは、これまでの能代運輸の横暴なやり方と協定違反の事実が述べられ、主催者挨拶として登壇した全港湾真島中央執行委員長より、「如何にして、秋田港での港湾秩序を守るかのたたかいである。このたたかい次第では、全国に波及する重要なたたかいである」ことが強調された。本集会には友誼団体として、全日通労組秋田支部の沢田宏執行委員長と秋田県平和労組会議の櫻田優子議長が来賓としてご参加いただき、力強い激励と連帯のあいさつをいただいた。その後集会は、全国港湾玉田書記長より「能代闘争の本質」について報告を受け、全港湾松永書記長より「今後の具体的な取り組み」が提起された。参加した仲間は真剣なまなざしで報告、提起を受け、全港湾鈴木誠一副中央委員長の閉会のあいさつで、集会全体が「一致団結してたたかう」ことを確認した。最後に秋田支部の藤川純委員長の団結ガンバロウ閉会となった。

11日には、早朝から能代へ移動し、能代運輸申し入れ行動をおこなった。申し入れでは、組合側は2011年・2016年確認書違反について言及し、産別協定の順守、秋田港における港湾秩序の維持を訴えたが、能代運輸與語社長からは、「我々のやろうとしていることは衰退する秋田港を憂いでのことであり、侵食とは考えていない」や「既存事業者が現状を理解し、対策を万全にするならば、我々の出る幕はない」など、自社の考え方を表明した。さらには、「新規航路・新規貨物の誘致は既存事業を侵食するものではないし、これまでも既存の貨物を侵食したことはない」として、新免申請の意

図を隠さなかった。組合側は、「港湾運送秩序維持は、事業法の目的に合致することであり、産別協定・地区労使協定の順守が大前提であり、そのことを確認すべきだ」とし、「新たな免許取得は港の混乱を招くだけのものである」と強調し、申し入れ行動を終えた。

当初予定の社前での報告集会・抗議集会は、長時間、悪天候の寒いなか見守っていた組合員への配慮から、昼食会場での周回に切り替え、松永書記長の報告を受けた。報告を聞いた行動参加者は、「能代運輸の姿勢はこれまでと変わっておらず、むしろ強まることが予想できる」として、秋田港港湾秩序維持協議会の開催や行政申し入れの強化、国会対策など一層の地理組強化を確認し全行動を終えた。